

ハラミちゃん

2024.2.6

最初に見たときは、それがうまいピアノなのか、そうでないのかは、よくわからなかった。熱情を感じさせる、何かから解放されたような演奏であることはわかった。金髪の日本人女性が、鍵盤と一体となっていた。その人の名は、ハラミちゃん。

よくあることなのだが、この人は、今までどんな人生を歩んできたのだろう。どんな経歴の持ち主なのだろうと気になることがある。ハラミちゃんもそうである。だからといって、ネットで調べようとはしなかった。

年末に、何気なくテレビを見ていた。すると、フランスの駅が出てきた。構内にピアノが置かれてある。それを演奏する映像が映し出される。そばには、ハラミちゃんがいる。どうやら、ハラミちゃんとストリートピアノを演奏する人たちとの交流を描いた番組だった。

ハラミちゃんがピアノを始めたのは4歳の頃だった。先にレッスンに通っていた兄の影響だった。通っていたピアノ教室の先生に、「才能があるから音大に行くといい」と勧められ、小学1年生のときには、「自分はずっとピアノをやっていくんだ」と当たり前のように思っていた。

ところが、念願の音大に入学した後のことである。そこには才能ある学生が全国から集まっていた。「上には上がいる」と感じ、圧倒されてしまう。クラシックピアノのプロになるのは、針の穴に糸を通すようなものだということを思い知らされる。その結果、ピアニストになりたいという気持ちにふたをする。

入社したのは、IT関連の事業を手がける企業だった。「与えられた課題は、120%の力で返さなきゃ」と自分で自分を追い詰めた結果、心身が疲れてしまい、休職することとなった。家に引きこもる生活が始まった。

休職して4か月ほどたったある日、様子を気にかけてくれていた会社の先輩が連絡をくれた。「東京都庁にストリートピアノがあるから、気分転換に演奏しに行ってみない？」いざ、ピアノの前に座って弾き始めたら、アドレナリンが出てくる感じが自分でもわかるくらい、とにかく楽しかった。

「ああ、やっぱり私はピアノを弾くことが心底好きだったんだな」周囲と自分を比べたり、世間体を気にしたりしているうちに、「好き」にまっすぐだった頃の気持ちを忘れていたんだなと気づくことができた。

その後、先輩が「YouTubeでこの動画を公開しようよ」と言ってくれた。ここから、ポップスピアニスト・ハラミちゃんが生まれる。悩んでいるときに、「人生は、笑った回数が一回でも多い人が勝ちだよ！」と、ストリートピアノに誘ってくれた先輩にかけられた言葉も、後押しとなった。

きっと、ハラミちゃんは、少しだけ遠回りしただけである。自分の人生を切り拓くきっかけをくれた会社の先輩は、それまで悩み、苦しみ、努力を重ねていたハラミちゃんを見てきたからこそ、休職中でも気にかけてくれていたのだろう。

ハラミちゃんの演奏を聞いていると、ピアノの技術というよりは、楽しそうなハラミちゃんを見ているような気がする。解放感あふれる演奏、私は楽しくて仕方がないという演奏に人は共鳴するのだろう。ハラミちゃんの笑顔とピアノは、人を幸せにする。